

# NETWORK

since 1983

# TERRA

VOL.123

2006 APRIL

4

## 目次

CONTENTS

### ■特集

#### ミャンマー特集

.....4~5

#### タイ里親ツアー

.....6~8

### ■連載

第三の眼.....2

とげずと云ふことなきなり.....3

ポツワナ~砂漠のカンバス.....9

今日もポレポレ.....10

### ■報告

スリランカ奨学金報告.....9



伊豆理事、里子との対面に素てきな笑顔(タイ里親ツアーにて)

「勉強は好き?」「ハイ大好きです。でもお母さんが学校を辞めなさいと言っている」。ただこれだけのやりとりだったのですが、泣きそうになりました。それは女の子の表情があまりに辛くて悲しそうだったからです。両親から勉強に対する理解を得る事ができない子供たち。お母さんがどうしてそういうことを言ったのか解りませんが、とにかくあの表情は未だに忘れられません。タイの支援を始めて十六年。クイキヤオ校とボーゲウ校の両校で、延べ三〇〇〇人近くの子どもたちが奨学金を受けて学校に行くことができました。これまで奨学金に携わって来られた方たちに思いを馳せました。ご一緒させていただいた里親の方たちの里子に対する愛情の深さ、細やかさを目の当たりにし、心打たれました。こうした人々によって「地球市民の会」の歴史が積み重ねられていたということを実感しました。ホームステイなど、本当に子どもたちの生活を実感できてたいへん勉強になりました。どこに行っても大歓迎され、あの人懐っこさやコミュニケーションの温かさはなんといいことでしょうか。私たち日本人が飽食の中で、忘れてしまった大切なもの……。

確かに私たちは支援者であるけども、タイの人々からいただいているものの方がずっと大きい、そんなことを感じたタイ里親ツアーでした。

みなさんへ、コップン・カップ (ありがとう)。

地球市民の会理事 伊豆 哲也

世界の平和と親善 地域社会の向上発展



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

特定非営利活動法人

地球市民の会 TERRA PEOPLE ASSOCIATION

840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10 TEL 0952-24-3334 FAX 0952-24-7321

E-mail:office@tpa.nk-i.net

ホームページ:http://tpa.nk-i.net

ホームページがリニューアルされました。御覧下さい。



# 続けることの大切さ

## 佐賀県武雄市山内町の姉妹都市交流

地球市民の会会長 古賀 武夫

会員の皆様お元気でしょうか。佐賀では桜の季節も早すぎ、キラキラの一年生や幼稚園のお子さんの笑顔がまぶしい季節になってまいりました。

さて、昨年末思いがけない招待の案内をいただきました。それは、佐賀県杵島郡山内町からのお誘いでした。(山内町は今年の市町村合併で武雄市山内町)そして、昨日四月十六日(日)アメリカより一年遅れの姉妹都市締結二十周年の式典が山内町で行われました。

実は二十一年前の一九八五(昭和六十)年、山内町は、アメリカカリフォルニア州にあるセバストポール市と姉妹都市になり、その後ずっと地道な交流を続けておられたのです。

地球市民の会が発足したのが一九八三年七月で、その同じ七月に古賀英語道場主催の第一回ホームステイ英語研修旅行を開催、サンフランシスコから車で一時間半ほどのりんご・葡萄で有名なこの町で約一ヶ月のホームステイをさせていただいたのです。私自身大自然の中に私と同じ年齢のベトナム帰還兵のご主人が立てたロツジ風の広々とした家に泊めていただき正に家族の一員として八月の日本のじめじめした暑さとは全く無縁のからつとした気候の中で、快適な夏を満喫しました。そのときの現地責任者がウエンディ・グロイドと言う女性で、毎日顔を合わせる中で、こんないい町だったなら、ぜひ日本のどこかの街と姉妹都市を結びたいねえ、と言う話になったのです。

実は、このころ私は、「日本一姉妹都市運動」と言うことを考えていました。まず手始めに、佐賀県の四十九市町村すべてが世界のどこかの町と

姉妹都市になり、世界を日本に集めて交流を深めてもらいたいと言うアイデアでした。その点でこのセバストポールはうってつけでした。ウエンディとも話がまとまり、私は日本側の候補地探しにかかりました。まずは、私の住む佐賀市。しかし、市長は首を縦に振りません。次に向いたのは、佐賀県鹿島市。ここでは市長はOK、ただし

議会が不賛成。そこで、山の中の町、山内町に呼びかけてみました。当時の山内町の町長草場重治さんは、大変教育問題に関心をお持ちでした。山内町は、正に山の中、都市部のようににはできないことも多い。国際交流を始めいろんな面でハンディがある。子どもたちの将来のために町に風穴を開けてみたい、そんな思いであったと思います。

そして、その思いを伝え聞いたウエンディさんは、その年の十二月、セバストポール市の市長、商工会議所会頭のメッセージを携え山内町を初めて訪問、姉妹都市交流の話はとんとん拍子で進んでいきました。セバストポールの皆さんの真摯なおもてなしに満足した私たち一行は、翌一九八四年にも交流の地としてこの町を選びました。このときは山内町の代表の学生も加わり、町長のメッセージをセバストポール議会で堂々と読み上げ拍手喝采の歓迎を受けました。

そして翌一九八五年、三月、草場町長の先進的な考えの元、国際姉妹都市友好提携協定が結ばれました。一九九〇年には、山内中学校とブルックヘブン校との姉妹校盟約書を交わし、爾来一年も途切れることもなく両町上げての友情を育ててお

られます。

この二十年間それぞれの町を訪れた人々は、それぞれ約一〇〇名ほど、人口一万人にも満たない町同士が、これだけの交流を続け、山内の人が、セバストポールを訪れると、「YAMAUCHIからです」と言うだけで歓待してもらえるところまで来たそうです。本当に両町の努力の賜だと思えますし、山内側から見れば子どもたちも大人たちも、英語の先生方も確実に英語のうまい人たち、外国人に物怖じしない人たちが増え、アメリカでの新しい家族の誕生を心から喜んでるように思えます。

地球市民の会の活動は、国際交流から、国際協力へ移行してきた感がありますが、協力の後には、必ず交流に戻っていくのが健全なことだと思えます。

二十年と言う年月は短いようで長いものです。なかなか二十年もの間、ひとつの活動を続けられる物ではありません。姉妹都市の調印をされた、草場町長もミラー市長も、今では故人となり、生きているのは私ひとりかもしれません。二十年前と言えば、今回日本を訪れたアメリカの子供たちは、まだ誰も生まれていません。当時十二歳だった中学生が、もう三十二歳、中には、この訪問で人生が変わった、と言う方もおられました。海外に眼を開き、より客観的に物事を判断し、自分の人生を決めていった方も多くおられたことと思います。アメリカ人と結婚された女性もおられました。



私は、昨日の式典と祝賀会に出席させていただきました。人間の付き合いというのは素晴らしいものなんだなあ、と改めて思った次第です。そして、やはり、世界の平和は、子どもたちの交流がひとつの大きな鍵であると確信した次第です。

(平成十八年四月十七日)

### 地球市民運動

人 社会 自然 の相互依存を十分認識し  
すべての いのち を慈しみ 強く 優しく 豊かに 美しく育てる

## 第8話 「JAグループ佐賀と取り組む小規模事業」

ミャンマープロジェクトマネージャー 大野 博之

現在、地球市民の会は佐賀県農業協同組合中央会(中野吉實会長を中心にJAグループ佐賀)と協同でミャンマーの貧農の支援事業を行っている。この事業は単に貧しい村人に経済的な支援をするというのではなく、地域開発のために彼ら自身が自立するための事業なのである。具体的には「水牛銀行」「養豚銀行」「ニンニク銀行」の3種類の事業がある。

今回はその中から水牛銀行を紹介する。水牛銀行はJAグループ佐賀から預託された資金をもとに地球市民の会が村のコミティ(自治会)に母親水牛を3頭貸し付ける事業である。村はその母水牛を村の希望者に貸し付ける。借りた村人はコミティに3万チャット(約3,750円)を払う。そして、母水牛を育てるのだが、その間に農作業などをさせても良い。水牛は農作業をしない間は牛飼いがまとめて面倒を見る。数十頭の水牛の群れを餌場や水浴び場に連れて行くのだ。その間に母水牛は妊娠をし、子供を産む。子供が生まれたら乳離れをするまで母水牛に養育をさせ、乳離れをしたら村人は母水牛を村のコミティに返却し、仔水牛が自分のものとなる。その際の仔水牛の受け渡し料として改めて3万チャットを村コミティに支払う。つまり合計6万チャットで仔水牛を手に入れることができる。これは市価の3分の1から2分の1である。故に村に格安の水牛が増えることになる。



農作業の貴重な協力者である水牛

水牛がいない村はどのような困った事があるのか? ポオー族は多くの人が田畑の耕作に水牛や牛を使っている。

しかし、多くの貧困な人々は水牛を持っていないために、耕作のために水牛を借りなければならない。農作業には適時というのがある。例えば、田植えをするには田植えにもっとも適した時がある。この時に植えると作物の出来が良く、立派に育つ事ができる。そしてそのタイミングというのは同じ地域に住む住人にとってはみんな同じ時期なのである。

つまり、水牛の需要は一時期に集中する。水牛の持ち主は当然一番いいときに耕作を行う。それでは次に誰に水牛を貸すか。一番高い金額で借りると言った人から貸していくことになる。つまり、貧しいポオー族には常にいちばん最後に水牛が回ってくるのだ。そうなると、適時での農作業がほぼできなくなる。その影響で、収穫が悪くなってしまったり、耕地はあるのに播種ができなくなってしまうということがおこる。

植えたい時に植えることができない、この悲しみは農民にしか解らないだろう。しかし、このことが働きたいのに働けないのと同じ事であるならば、農民でなくてもこの切なさは理解できる。働く事は往々にして義務として、働かなければ食べていく事ができないので働く場合もあるだろう。しかし、多くの場合、働くという行為は生き甲斐である。だからこそ苦しくても頑張れる事ができる。農民でなくても生き甲斐を奪われた苦しみを想像できるのなら、彼らの苦しみを少しは理解できるのではないだろうか。

手でやれば良いという事を言った農業系大学生がいた。日本のような農地ならばそれも可能かもしれない。しかし、ポオー族の畑を一度見たらそのような事は言えなくなるだろう。広大な農地は腐植(土の中の有機物)に乏しく、長い乾季に水分が飛んでしまい硬くなっており、鋤で耕そうにも歯が立たないのである。牛で耕したあと直径30センチぐらいの大きな土くれは、鋤でつぶそうとしてもなかなか手ごわい作業となる。先の発言をした学生を現場に連れて行った際、彼が言葉を失っていた事を思い出す。彼の言うように手で耕すのは自分の家の前にある自給用のほんの少しの畑ならば可能ではあるだろう。

水牛を村に増やしたいというのは村人の願いでもあった。今年3月に佐賀から農協の皆さんが視察に来られた際、昨年からの事業を始めているハンボウベイ村に行って村人にインタビューを行った。水牛を飼育している村人に生活がどう変わったか質問した。「雨季の早い時期に耕す事ができるようになった。また耕せる範囲も広がった。自分が終わったら村の人にすぐ貸し上げられるようになり、みんなが助かっている。今は時間が短縮できるようになり、時間がなくて今までは手につけられなかった畑も耕し、作物を植えることができるようになった。収入も増えた。」と話した。このように生活が変わってどんな気持ちかも尋ねてみた。「仕事がしたいときにできるのが何よりも嬉しい。こんな事は今迄一番嬉しい事の一つだ。収入も増えて、子どもを学校に行かせられるようにもなった。これもまた嬉しい」と答えた。村のコミティは15年かけて村中の人が水牛を持てるようにしたいと語った。



小規模事業に参加する村の人達

アジアの辺境の村の一人ひとりの農民に日本の佐賀の農民の一人ひとりの心が伝わっていくこの事業。この事業に携わることができることは、地球市民の会にとっても私にとっても大きな喜びである。JAグループ佐賀の皆さんに心から感謝を述べたいと思っている。(了)

追記:この事業が村人の自立発展のための事業である事や、「養豚銀行」「ニンニク銀行」の詳細を今回紙幅の限りのためご紹介できませんでした。別項にてご案内させていただきたいと考えています。

タイトルの「とげずと云ふことなきなり」は懐装編「正法眼蔵随聞記」より拝借しました。

## 支え合いのこと

佐賀県農業協同組合中央会  
常務理事 家永 武士

J Aグループ佐賀では「アジアとの共生」の実践として、平成十六年度からミャンマー農業支援活動に取り組んでいる。役員員からの支援金五〇〇円ずつを積み立て、現地で水牛の購入や養豚、特産であるニンニクの種代、入植者の生活資金などを貸付け、将来にわたって基金を循環活用するものである。地球市民の会の協力により、ミャンマーの中でも最も貧しいポオー族の十五村で実践しており、この状況を確認するため三月に現地を訪問した。

各事業とも始まったばかりで、今後の改善が必要だが、村民の意欲は強く、日本ではタバコ二箱の代金にも満たない五〇〇円ずつが現地の人々の生活に大きく役だっており、協同することの力と大切さを改めて実感したところである。

ここでポオー族の人々について少し話したい。先ほどポオー族のことを最も貧しいという表現をしたが、適切ではないかもしれない。貧しいというのは、あくまで日本の世間一般の暮らしに比べて、物質面で乏しいという意味である。

雨季と乾季にわかれる苛酷な農業条件、舗装されていないデコポコの道、水道もなければ、電線は通っていないもお金がなくて電気が引けないなど、数えたらきりがないが、それでもポオー族の人々は明るい。精神面では、我々よりも豊かなのではないかとさえ思える。

彼らは、敬虔な仏教徒である。真面目で正直で、自己よりも村のために生きるといふ思いを持って生活している。優秀な子供がいても高校にやることが出来ない。そう



いう時には、村人がお金を出し合っている。なで支える。

ポオー族には農業協同組合こそないが、村そのものが協同組合の理念である。一人は万人のために、万人は一人のために」という思いで成り立っている。

また、我々一行は、先々で大変な歓迎を受けた。これも地球市民の会のみなさんご活躍や今回、ミャンマーの人に使って欲しいとサッカーボールなどを提供してくれたサガン鳥栖の方々など、さまざまな人のつながりと支えがあったからこそである。

佐賀に帰ってきて、ポオー族の人々の笑顔を思い出す。些細なことにも幸せを感じる。水道から当然のように出る水、車が跳ねないきれいな道路。私たちは誰かのおかげで生きている。当たり前と思っていたことに改めて感謝したい。

ミャンマーで生活した  
八ヶ月間

小谷 博光

バケツをひっくり返したような集中豪雨が三十分くらい降り続き、それは一日に五回ほど繰り返されます。道端には、小川がでる粘土質の土はぬかるみすべり、人や車の移動はとても困難になります。そのようなミャンマーに、去年の八月下旬からインターン生として住み始めました。当初はビックリすることはありでした。熱帯地方特有のスコールと呼ばれる集中豪雨は目も開けられないくらい降り、すべての作業を中断させてしまいます。しかし、ミャンマー人はスコールが止むのをとても気長におしやべりをしながら待ちます。これが彼らミャンマー人のリズムです。

また、日本に比べて虫が多く、種類が多様なことも驚きでした。9畳くらいの部屋で寝泊りしていましたが、毎日毎日アリが大量に出ました。大きさは日本とそつ変わりませんが、1日掃除しただけで両手ですくうと2杯くらいはいます。さすがにこれには心底まいりました。アリに噛まれ夜中によく起きたものでした。また、虫といえばさそりを忘れてはいけません。講義や集会ができる広い場所です生徒たちが掃除をしていた時、さそりがら匹出ました。私は、さそりを見たのは初めてで刺されるのが怖かったので遠目から見ていました。が、女の生徒たちはほうき持って追い掛けているので怖くありません。怖くないの？刺されるよ。」と言うと、知ってるよ。大丈夫!!という答えが返ってきました。怖いよりも楽しい方が勝っている十五歳と十六歳の女の子は私もよっぽどたくましかったです。その他には、角が三本あるカブトムシに似た虫や、金色のてんと虫など見たこともない虫もたくさんいます。

食生活では、ほぼ毎日野菜と豆ばかりで、豆スープとご飯という食事でした。(ミャンマー人はお米を食べます。)油がとても多いですが、私は大好きです。

また、ミャンマーで生活しますと、知らない人から声を掛けられるということが沢山あります。日本人が住んでいることが沢山のことで、みんな私を知っています。しかし、私は彼らのことは知りません。ミャンマー人は、喫茶店や知人の軒先でお茶を飲みながら、話をするのが大好きです。ですので、彼らは私を見て、きつとあいつだ」と思い、声を掛けてくれます。もうご飯食べた?」「どこいくの?」と挨拶してくれ、一昔前の日本の挨拶と似た所があります。その他にも、もう日本では少なくなった習慣などがミャンマーでは当たり前のように多く残っています。例えば、行く方向が同じなら知らない人でも乗せて行ってあげたり、人手が少ないれば助けに行つてあげるなど助け合いの精神が色濃く残っています。このような土地で、生活させて頂く機会に恵まれ、自分自身の中で薄れかけていた助け合いの精神を再認識することができました。これを日本でも多くの人に再認識して行動に移してもらつたためにも、私はミャンマーで経験したことを多くの人に伝えることが大切だと思っています。最後に、このような機会を与えて下さった地球市民の会の会員の皆様、事務局の皆様、ミャンマーで何かと助けて頂いた大野さんに感謝を述べたいと思います。





# シアン州 での 農業協力

藤井敬三



今回、これまで数回に渡って、農業専門家としてミャンマーに赴いていただいた佐賀県鹿島市で有機農業を営む藤井氏に、これまでの現地での協力を振り返っていただきました。

## シアン州での農業協力

最初に行ったのは、2004年の1月でしたが、その時のシアン州は乾季で前年の11月からほとんど雨が降らず、畑はカラカラで土は焼物をこねるようなやせた赤土で、山には木は少なく荒涼とした半砂漠といった感じでした。

## シアン州の農業

シアン州の四季は、春夏、梅雨、秋と日本のような厳しい冬がなく、乾季（11月～4月）の6ヶ月間はほとんど雨が降りません。気温は沖縄くらいでしょうか。バナナ、パパイヤ、マンゴーなどの熱帯果樹もあり、いちご、みかん（ぼんかん）などもたくさん作られています。また研修所のあるピンダヤはピンローと並んでミャンマー有数の茶産地です。一度、ヤンゴンの中央卸売市場にも行きましたが、キャベツ、ジャガイモ、タマネギ、ニンニク、かぼちゃなどの主要な野菜はほとんどシアン州産でミャンマー1の野菜、果樹産地だということでした。

## 今回の活動について

2004年1月から5回の訪問（延べ約60日間）でしたが、当初の予定（120日間）が政変でビザの延長が許可されず、プロジェクトが中途半端になりましたが、今後の展開も含めて、農業協力を行ったセレー村について報告します。

## セレー村

セレー村は森太郎寮が建設された村です。村人は以前は山を焼き、そこで数年間陸稲、豆類を作り、地力が衰えると、別の山を焼き作物を作るという自給自足の焼畑農耕をしていたのですが、30年程前から商品作物としてとうもろこしを毎年つくり続けており、現在村の90%の耕地でとうもろこしを作っています。しかし土は硬くなり収量は年々減っており、また新たな土地を求めて山を切り開いて畑にしていたせいか水が出なくなったり、ヤマネコのすみ家がなくなったため、そのためとうもろこしをエサとして食べる野ねずみが大発生し、深刻な問題となっています。村の人に何回も集まってもらい話し合いの中で、土地はやせて、土を良くしたいがどうしたらいいかわからないということでしたが、もし私がセレーで農業をするなら次のことに心がけるでしょうということで6つの提案をしました。

### 1. とうもろこしから他の作物に転換する

同じ土地で毎年同じ作物を作付けすると、特定の成分が持ち出されるようになり、ミネラルバランスが崩れ、収量が落ちてくるので、空気中の窒素を固定するマメ科植物との輪作、混作をする。

### 2. 収穫残渣（葉、茎）を焼かずに畑に戻す

長い焼畑の習慣から、ワラ等は燃やしてしまっているため土

壌生物のエサが少なくなり土地は硬くなる。（これは佐賀の農家にも言えることですが……）

### 3. 等高線上にうねたてをする。

セレー村に限らずシアン州では傾斜地でも日本のような段々畑（テラス）はなく全てスロープであるため、雨季のスコールで貴重な表土が流されてしまっている。

### 4. 6～10mおきの等高線上にマンゴー、パパイヤ、バナナ、みかん、茶等の多年生作物を植える。これは土壌流出を防ぐと共に、果樹ととうもろこし、まめを混作し生物の多様化をはかる。

### 5. すき（プラウ）による深耕をやめ、不耕起もしくは表土を削るだけの浅耕起栽培を導入する。

### 6. 村でとれたとうもろこしを原料（エサ）のまま出荷せず、村内で鶏、豚を飼う。より付加価値の高い卵、肉として出荷することで収入の増加がもたらされると共に、少しでもその排せつ物を堆肥として還元し、多少なりとも地力維持に貢献できると考えられる。

以上、いずれも一朝一夕にできるものではありませんが、私が約20年間にわたり実践し、確認した経験を基に話したところ、村人もやる気になり、むらの数箇所でも実験ほ場を作ること話しましたが、上述の理由で中断した状態になっており、また機会を見て再開したいと思っています。

私の提案の一部を村の農業のリーダーであるウネン氏が個人的に昨年から実践して好結果を得ており、今年2月に訪問した際にも、鶏500羽を導入しやる気満々でした。

また、セレー村では森太郎寮の井戸と、私が伝えた養鶏法で村の人の協力を元に鶏小屋を建設しました。

現在セレー村のとうもろこしはほとんどタイに輸出され、鶏のエサとなり、その肉の一部は日本にも輸出されています。グローバル化した時代においてセレーの問題も我々日本人と無関係ではなく、何気なく食べている鶏を輸入することが、貧しい村の地力をより減退させていることを認識すべきでしょう。

## 今後の展開

2004年1月から5回にわたる今回の一連の訪問は私自身にも得ることが大きく、気候、土地が違っても土づくり、作物の健康などいろいろ勉強になり、しかも私の提案を信じて実行に移してくれた人が数人出てきてくれたことは大きな収穫でした。ただ1週間から1ヶ月の短期の訪問ではプロジェクトが中途半端になったことも事実で、これからは、日本での農業研修の受入、農業改良普及員であった方などに長期の農業協力ボランティアをお願いするなど、長期的な取り組みが必要だと思えます。もちろん私も年に1回は訪問する機会をもうけ、縁のあった人々との交流を深めていきたいと思っています。

最後に私のミャンマーでの活動を常にサポートしてくれた大野プロジェクトマネージャー、通訳をしていただいた現地TPAスタッフ、国内事務局の皆様深く感謝します。これからも地球市民の会の活動がミャンマーと日本人の交流をより深めるきっかけとなるよう微力ながら努力していきたいと思っています。

# タイ里親ツアー

## ツアースケジュール

- 3月21日  
福岡国際空港よりタイに向け  
出発・クーキャオ校があるウ  
ドンタニ県到着
- 3月22日  
クーキャオ校の卒業式に参加・  
里子と交流を深める・家庭訪  
問・歓迎会
- 3月23日  
クーキャオ校の視察・先生方  
とミーティング・現地視察・  
カラシン県へ
- 3月24日  
カラシン県にあるボーグウ校  
に到着・卒業式に参加・家庭  
訪問
- 3月25日  
早朝に福岡国際空港に到着・  
解散

3月21日より25日までの5日間、地球市民の会の奨学金支援校であるクーキャオウイッタヤ校(以下クーキャオ校)とボーグウヤウミーテーパッターナー校(以下ボーグウ校)を訪問。5名の里親さん方と卒業式に参加してきました。里親さんと里子の感動の対面がありました。



(写真) クーキャオ校卒業式

3/22

クーキャオ校の  
卒業式に参加

イサーンの土地特有の赤い土を踏みしめると、タイ東北部のこの地にたどり着いたのだなあ、という実感が湧きます。はるばる日本から訪ねてきて、今年も元氣な子供たちに会えることができました。三月のタイ東北部はたいへん暑く、およそ桜の似合わない、茹だる様な暑い空気の中での卒業式でした。(写真)



(写真) 左から2番目がクーキャオの校長先生

式が終わり、生徒と先生、そして私たちが一つの輪になって手を取り合い、別れの歌を歌います。



(写真) 卒業証書授与

卒業生の名前が次々と読み上げられ、生徒たちは壇上で校長先生から卒業証書を受け取ります。見覚えのある生徒たちが大人びた顔になり、学校を巣立つ嬉しさと寂しさの入り混じった表情を浮かべ、参列した私たちにも張り詰めた緊張感が伝わってきました。(写真)

3/22

3/23

里子の家を訪問

前回の里親ツアーの報告(テラ一七号)でお知らせしたテラダ・チョンチャラオさんの事を覚えておられるでしょうか。中学一年生で、父親は行方不明、借金のために家を失った母親と祖母の家に身を寄せ、雨風をしのぐのがやっとのヒートルを張り巡らした家で妹との四人暮らし、と紹介した女の子です。今回の訪問で再び彼女の家を訪ねました。なんとそんな彼女の家が、セメントブロックで囲まれた綺麗な家に変わっていたのです。(写真)

こんな遠い地で、子供たちの人生の岐路に立ち会うことができ、本当に光栄でした。(写真)  
別れを惜しむ子供たちは日本の子供たちの様子となんら変わらず、彼らの笑顔と涙には、やはりテラハラと舞い散る桜が似合います。三月の三月でした。(写真)



(写真) 別れを惜しむ卒業生たち



(写真) 右:里親の唐沢さん

夫々の里子の家を訪問する中、貧しい環境のこの村では、ありや食用のこおろぎを養殖し、自ら

「よかったねえ、余裕ができたのだねえ」と思っていたら、なんと嵐がきて家ごと吹き飛んでしまったとのこと。見かねた政府が援助として新しい家を提供してくれたのだそうです。都会の発展から取り残されたこの地域に政府の援助の手がさしのべられたことは、私たちにしても嬉しいことでした。日本のNPOが訪問することにより、政府の注目が集められていることは以前から聴いてはいましたが、まったく水道が整備されていなかったこの地域にも、政府の手によって少しずつ井戸が設置されていました。(写真)



(写真) 右がテラダさん、右から2番目が里親の宮嶋さん

薬草を練り合わせて薬を作るなど、昔ながらのゆつたりとした生活もまだまだ残っています。しかし、農作物の十分な収穫を望めないために、長期休暇のこの時期にサムイ島や両親の出稼ぎ先であるパンコクに働きに行く子供たちは大勢います。その時に貯めたお金を新学期の勉強費用に充てるのだからです。

家庭訪問の途中で大変嬉しいことがありました。家庭訪問をしている途中で里親さんである宮嶋さんの昔の里子と偶然出会うたのです。その女性は美しく優しいお母さんとなり、かわいい男の赤ちゃんを抱っこしていました。(写真)



(写真) 左が宮嶋さん、中央が里子

結婚して幸せに暮らしているのだそうです。タイのウドンタニ県に宮嶋さんは(とても若いおばあ様ですが)お孫さんがいたことになり、とても幸せそうな再開の笑顔は、周りに居た私たちの心まで幸せな気持ちにさせてくれました。日本からの支援が彼らの幸福な生活の支えの一部になっていることは、大変うれしいことです。

3/23

### 学校で先生方とミーティング

奨学金を受けたいと学校に申請書を提出する子ども数は、いここに減らないとのことでした。申請書の中からやっとの思いで三分の一に減らして、現在の里子の数にしているそうです。本当に貧しくて学校に通う事ができない子供たちに支給するのはもちろんですが、貧しさの度合いが比較的低くても勉強に対する意欲があり優秀な子供たちがより高い教育を受けられることができるようにと、選考する先生方の気持ちも大変揺れ動くようです。嬉しい事に、地球市民奨学金の支援を受けて高校を卒業し、国の奨学金を受けて大学へ進学した四人の生徒が、学校の先生にいたる母校のクーキャオ校に戻っているそうです。少しずつでもクーキャオ地区の教育に対する意識の底上げに効果が現れてきていると確信を持つことができました。

3/24

### ボーゲウ校で卒業式に参加

コンケン市内から車で約二時間半。やっとなどり着いたボーゲウ校では、既に生徒たちは今や遅しと里親さんの一行を待ち受けていました。ボーゲウ校の校長先生は今年度から女性の先生が赴任しており、とても穏やかな方です。(写真)

卒業生の中には、多くの懐かしい顔々が見えます。一年に一回しか会えなくても、里親さんと里子の再会は懐かしさの想いがある、なんとも言えない良いものです。



(写真) ボーゲウの校長先生



(写真) バイシースークアン・儀式の様子

のです。バイシースークアンという、タイでは人間の皆に宿っていると信じられている魂の安寧と幸福を祈ってお互いの腕に紐を結ぶ儀式をおこない、再会を誓いました。(写真)

家庭訪問では、里子の卒業後の心配をして三月の訪問を心待ちにされていた唐沢さんが、里子の進学先を直接確かめることができました。唐沢さんは、絵を描く事が大好きな彼女から今まで彼女が描きためたスケッチブックをプレゼントされていました。その中には、優しい表情の日本のお父さん、唐沢さんの素敵な笑顔のスケッチがあったことを見逃す事はできませんでした。(写真)



(写真) 唐沢さんと里子との再会の様子

金銭的な支援は確かに子供たちの勉強のために役立っています。貧困のために勉強をあきらめなければならぬ子供たちが、奨学金により教育の機会を与えられ、自らの人生を切り開いています。しかし、金銭的な支援だけでなく、このようなツアーで心の交流を行ない、私たちが彼らの心の支えとなり、国を超えて子供たちの心を育てていく事ができれば、私たちがとって真の意味での支援と呼べるのもかもしれません。(写真)



(写真) 里親さん、クーキャオの先生方と

## 参加者の感想

### 里親ツアーに参加して

堤 清行

今回、念願のタイ里親ツアーに初めて参加しました。実は直前に少身体調を崩し、迷惑を掛けたくないかと心配していましたが、伊豆理事さん担当の西村さん始め、地球市民のお手本のようなベテランの唐沢さん、宮嶋さん、若々しい平野さんのメンバーの皆さんのお陰で楽しい、有益な旅ができたことをまず感謝申し上げます。

私は平成六年に退職後、何か社会にお返しするよな活動に参加したいと考え、会員となりましたが、第二の就職で時間がまなならず、会費のみの会員でした。この奨学金の話、里親の方の経験談を知り、これくらいは、私も出来ると思込みました。直ぐ、里子からの手紙がきました。返事を出すと、年賀状や写真が送ってきました。この子たちはどんな生活をして、どんな希望を持って学んでいるのだろうか。私ささやかな援助が彼らの未来に少しでも、役立っているのだろうか。一度は現地に行つて、彼らと会つて見たいと思つたようになり、

パンコクから飛行機で一時間のウドンタニ市、それから車で一時間のクーキャオ校、乾季の終った夏とはいえず、周りのカラカラの農地を見ると、サトウキビと雨季の雨の量に左右されるといふ米の収穫に依存している農家の暮らすが、想像で存している。農繁期には学校を休んで農業の手伝い。休みには遠く市街地に日雇仕事に出稼ぎといえます。

卒業式には、私たちも来賓として壇上に座り、校長先生から一人ひとりに卒業証書が渡されました。私の里子、テニアンタはどの子だろうと注目していましたが、わかりません。式後、彼女は週間前の学期終了後から

既に遠くで働いており、卒業式には出席していただくことがわかりました。残念でした。しかし、翌朝、彼女の父親が学校を訪れ、彼女からの御礼と近況を話してくれました。もう一人の里子、アルトト君はまだ中学二年生です。各地を回った家庭訪問の最後に、彼の家に着きました。学校から十キロ以上離れています。元気で賢そうな少年です。将来何をしたいかは未だ決めていないとのことですが、彼が希望の方向へ進めるよう私が援助出来ればと、思いました。彼らが一緒に言う親を案にさせるために働きたいという言葉は聞けば、何とか叶えてやる方法はないかと誰でも思うでしょう。

彼らの純朴で優しい心、手を合わせる挨拶、サウティカップに幸あれ。



## タイの里親ツアーにて

唐沢 利夫

三月のタイは暑かった。日本の爽やかな春三月とは違い、この三月を中心に前後一ヶ月程を暑期と呼ぶらしい事を始めて知った。旅の途中で帽子を失ったせいもあり頭の真上を太陽にツンツンと突かされている様な感じであった。

さて、楽しみにしていた里子との対面だったが高校卒業と言えば十八才位が、すっかり大人びてすっかりしているのが頼もしい。

この里子の両親は長いことバンコ

クへ出稼ぎに行っていた様だ。今の世の中、学歴や技能の持ち合わせがないと、どうしても下積みにならざるを得ない可能性が多いので親の方も心配であるらしい。

それにしても大学へ行く事は大変な事だ。大人も親もこれからは正念場になるかも知れない。大学のあるバンコクへの出発を二日後にして彼女も慌しい。

私がタイの里子とかかわりを持つようになったのも学業の基礎を作っておかない(あるいは、作っておけなかった)人生は結構辛いと思っただからだ。

しかし、タイ東北の最貧地方でも義務教育のみでは、置いてけぼりを食いつつだとの危惧もまた、親も子も肌で感じているはずだ。

十代の親子のスキップの大切な時期に何年も離れて暮らさなければならぬという事は学歴と引き換えの辛さと満足か。

そして当里親は里子が大学に進学するという話を聞いた時、どう対処したら良いものかと悩むのである。里親の限界もこの辺にあるのかも知れない。

## 卒業、そして新たな出会い

宮嶋 美子

今年の冬は格別寒かった。だからだろるかタイ東北部イサーンはこのほか暑かった。三月初めに学校は休みに入り、在校生はそれぞれ親の出稼ぎ先(多くはバンコク)に行つてバイトをしたり、村にやつて来たバイト斡旋業者について四月末まで村を出て働きに行くものが多かったようだ。二十二日のクイキヤオ校でも、二十四日のボーゲウ校でも卒業式出席は卒業生のみ、中高合同で生徒比は二対一だろつか。

きれいに飾られた体育館で、お釈迦様と国王夫妻の像に見守られての式だった。校長先生から卒業証書を一人一人受け取る、そして先生から

の「送る言葉」。その先が日本の式と大きく違う。村の長老による説教、このときヤシの葉の飾り物を中心に先生も生徒もみんな集まる触れ合うように。最後の経は全員で誦経、その後ヤシの葉に掛けられていた祈りのこもった白い糸を互いの手首に結び合う。私も結んで頂いた。仏との縁を結び幸せを祈るものとのことである。今年クイキヤオ校を卒業する里子に私も心を込めて結んだ。村に残つて家業の農業を手伝つたか。

今は乾季のいちばん熱い時で、四月のソングラン(水掛祭り)後の雨季を待つ農作業が始まる。畑の土は白い粉が吹いており、痩せて見える。先生方の話では農業ではやめていけない、他の換金作物・一村一品運動の指導などが始まっているが未だ先は見えない。

都市で働けるように、というのが親達の願いであり、そのために母校にやりたい、という思いがひたひたと伝わる。地球市民の会の奨学生で更に大学を目指し、今母校に戻ってきている先生方に会えたことは何よりも嬉しかった。

そして泊めてもらった里子の家は学区的には、反対側の村の学校なのだけれども、父を亡くし、現金収入の乏しい中でこの奨学金があるからクイキヤオ校に通える、勉強したい、という生徒だ。学校から遠いので月三〇〇バーツのバス代が掛るけれど、それはおばさんが出してくれているとの事。私の月一〇〇〇円(三八五バーツ)がこの女子中学生の向学の志に役に立っている事を知り、胸が一林になった。今年の卒業生で止めないで二〇〇六年の新しい奨学生にも続けよう……小さな決心である。

今回のヒックリは、五年前に高校を出た里子が結婚し子どもを連れて、新しい里子の家に会いに来てくれたことである。家族で台湾に働きに行つてたまたま帰っていたとの事。とても幸せなケースだと旧担任の先生から伺った。家族揃って働ける安定した生活はなにより、というのはタイの貧しい農村だけの話ではないよね、としみじみ嬉しい土産話である。

## 里親ツアーに参加して

平野 朋子

奨学金事業に参加させていたたき十五年程度になりますが、里親ツアーはじめてのことでした。

そもそも私が奨学金の支援を始めたきっかけは、母の強制的なものでした。タイの里子より幼かった私は母にお年玉の一部を手渡ししながらも何となく良いことをしたような気が持ちました。二十歳を過ぎた頃にツアーがあることを知り、漠然と行ってみたいと思っていたのですが、時間とお金ときかけがなく行けずじまいでした。そして社会人一年目が終る頃、ちょうど車を購入するつもりで貯めていたお金と、少し長い休みがあり、今行かないと次はいつ行けるかわからない!という思いで参加することにしました。

それまでの里子からの手紙がきても、さうと目を通すだけで返事も一度しか書いたことがなかったし、今自分が実際に会うことが出来ない里子のことでも何も知らないまま(実際は手紙がきて少し自己紹介などをしてくれていたのですが名前も覚えず…)タイに行きました。

子供たちが住んでいる農村は貧しいと聞いていたので、どんな悲惨な状況なのかと思っていたら、子供も大人も皆笑顔で表情からは心が澄んでいるような印象を受けました。実際家庭訪問をしてみると、両親が亡くなつたり、親がソングポールまで出稼ぎに行つて家を空けていたり、出稼ぎに出た父親がそのまま帰つてこなくなつたりと、各家庭の事情が詳しく見えてきました。私がホームステイさせていた所も両親が離婚して祖母と十三歳の女の子の二人暮らしの家庭であり、里子におみやげをもつて行った時も長期の休みを利用してバンコク

まで出稼ぎに行つていませんでした。タイの中高生が今一番欲しいものは携帯電話だそうです。これは日本の子供がおもちゃやスニーカーの感覚で欲しいものとは違って、親と離れて出稼ぎに出てホームシックになつた時、話をしたいからだそうです。

ホームステイをしに家に行つたときは夜遅かったので簡単に自己紹介をしたり写真を見せたりしたあと一緒にかやの中で寝ました。次の日の朝は近所を散歩して案内してもらったのですが、十三歳でまだ英語があまり身につけていなかったため、「コミュニケーション」といえばほとんど目があつたら笑顔で微笑むといった調子でしたが、心温まる時間を過ごすことができました。

日本ではどの学校でも不登校の生徒がいて親も学校も対策に困っています。全体的に生徒は勉強に対して受け身であるように思います。反対にタイでは学習意欲があつても学校に行くとか家で大切な働き手が減つてしまつという理由で、学校に行くことに否定的な親がいると聞きました。将来タイの経済が成長し、子供たちが満足に教育を受けることのできる時代が来ることでしょう。その過程において心の教育、親子のあり方などについてもしっかりと取り組みながら教育を充実させていってほしいと感じました。



## スリランカ 2006年度の里子より感謝のメッセージ

皆様のご協力を得て本年度もスリランカのシヨダヤ奨学金の里親募集が終了いたしました。心より感謝申し上げます。現地でも受給者の選考が終了し、その中の一人から早速手紙がきましたのでご紹介させていただきます。(里親の皆様には後日プロフィールをお送りいたします。)



サンガミタ女子高校の教室の中。  
2006年2月の視察にて

本奨学金は、金銭的な支援と同時に、受給生の精神的な支えともなっております。里親の皆様におかれましては今後ともよろしくご支援賜れますようお願い申し上げます。

2006年度受給生

O.T. ニルーパ クリシャンティ(18歳)からの手紙



私は2人の姉妹、2人の兄弟がおり父と母と暮らしています。私は私の兄弟姉妹の中で一番末っ子です。現在私は中等教育資格試験を経て、サンガミタ女子高校の12年生の芸術コースに在籍しています。経済的な困難はありますが勉学に励んでいます。私は勉強するのが大好きです。私の最大の願いは、高等資格終了試験を経て大学に入学することです。このような(奨学金)制度は私のような経済的に困難な学生にとって非常に大きな助けとなります。感謝いたしますとともに皆様に三宝の恵が訪れることをお祈りいたします。

のが大好きです。私の最大の願いは、高等資格終了試験を経て大学に入学することです。このような(奨学金)制度は私のような経済的に困難な学生にとって非常に大きな助けとなります。感謝いたしますとともに皆様に三宝の恵が訪れることをお祈りいたします。

Republic of Botswana

## ボツワナ～砂漠のキャンバス④

「レッドリボン」

古賀悦子

ボツワナがかかえる一番の問題は、エイズの蔓延です。たとえばジンバブエとの国境の町ピクウェでは、成人のエイズ罹患率が5割以上だそうです。ボツワナは平均寿命が30代となっており、エイズ孤児に対するサポートも大きな課題です。

私の活動する村でも、あちこちにエイズ関連のポスターや張り紙がみられます。エイズに関する新聞記事を見ない日はありません。国をあげてエイズ予防にとりくんでいるボツワナでは、政府が国民にコンドームを無料配布しています。私が勤務するモレフィ高校の図書館には、「1人2個まで」と書かれた箱が置かれ、山盛りのコンドームが入っています。体育館の扉には、「コンドームを使おう」と書かれたポスターが貼られています。最初に見たときには驚きました。

先日、村の商店街の一角で、若者の

ためのエイズ予防講座が開かれていました。男性器と女性器の模型をつかって、コンドームと女性用コンドームの使い方の解説がありました。小学生から高校生までの子どもたちが取り囲み、真剣にその様子を見ていました。

モレフィ高校では、妊娠で停学になる女子生徒が毎年30人以上います。なかには、家族親戚間での性的虐待もふくまれており、それらは女性軽視の風潮が原因になっているようです。

日本では、エイズについての話題は、テレビでも学校でもほとんど取り上げられません。ボツワナでは小学生でもよく知っている、「エイズ患者への愛と世話」、「エイズ患者と共に生きる」という理念、それらは、日本では別世界の話に聞こえるのではないのでしょうか。エイズが他人事でなくなったとき、果たして日本ではどのような反応が起きるのでしょうか。



「エイズ患者を差別せず、ともに生きる」という印のレッドリボン。ボツワナでは多くの人々が身につけています。



レッドリボンのビーズアクセサリーと無料配布のコンドーム。

今日も



(スワヒリ語で“ゆっくり、ゆっくり”)

## タンザニア便り その4

牛嶋 啓道 Hiromichi Ushijima

**タ**ンザニアでの生活にも慣れ、毎日が忙しく、そしてあっという間に過ぎ去っている今日この頃。今回はタンザニア人の食生活について触れたいと思います。タンザニアでは朝6時、昼2時、夜8時に食事を採ります。朝の10時ぐらいに日本のおやつのような感じで間食します。タンザニアの主食は“ウガリ”というものです。このウガリは、とうもろこしの粉やキャッサバの粉を水で溶かしてそれをグツグツと熱します。水分がある程度蒸発し数度粉を加えながらこねまわします。すると、大きな白い塊のウガリが出来ます。出来立ての熱々のウガリを一つまみ大きな塊からつまんで、手でこねて食べます。食感は粉のザラザラとした感触ともちもちとした感触の中間のような感じです。おかずには、煮た豆や、鶏肉、ヤギ肉のシチューを添え一緒に食べます。タンザニアの人達は毎日ウガリを食べます。とうもろこしの粉等を水で溶いて熱したウジというものを朝食に採ります。ウジは好みに合わせて、砂糖を入れたりして食べます。このように、とうもろこし、キャッサバの粉はウガリを作るにしてもウジを作るにしても、タンザニアにはなくてはならない食材です。よくタンザニア人に「日本に行きたい。」といわれますが、「ウガリはないぞ。」と答えると、信じられないといった感じで、驚きます。そして、ウガリがないことを気の毒に思っ、「pole sana (スワヒリ語で“お気の毒”という意味)」と言われます。その他にワリ(ご飯)も食べています。ワリはココナッツミルクや油を入れて炊きます(炊くというより煮るといった感じ?)。タンザニアには日本米も入ってきてます。また、おやつには、小麦粉をこねて油で揚げたチャパティ、ドーナ



ウガリと煮豆

ツのようなパン等をチャイ(お茶)と一緒に食します。その他、タンザニアはフルーツの宝庫です。マンゴー、パイナップル、バナナ、オレンジ、パイナップル、パッションフルーツ等、その他見たことのないフルーツがたくさんあります。マンゴー等は少し田舎へ行くと、マンゴーの木があるので、落ちたマンゴーを拾って食べることが出来ます。マンゴーの木下では、子供達がよく、熟れたマンゴーが落ちるのを待ってたり、石を投げたりしています。また日本でもよく知られているキリマンジャロコーヒーのコーヒー豆、またカシューナッツは主に換金作物として栽培されています。田舎では、食べ物は自分達で畑を耕しいろんな食べ物を植えて自給自足の生活をしているので食べるものには困ってはいないようです。しかし、自分達が食べていける程度しかないので、お金による収入は殆どありません。その為、子供達の学費の支払い、病気になったとき等にはお金が支えれないといったようなことが数多くあります。逆に都市部ではお金の収入は田舎よりもよいかもかもしれませんが、自分の土地がないため、いろんな商売をしています。都市部のほうが、かえって、貧困層が高いかもしれません。私の田舎に住んでいるタンザニアの友達に私に言います。「今の仕事を失っても、食べ物を作る畑があるから私は生きていける。」この言葉を聴いて、今の日本の食料自給率の低下、農村部での過疎化等を考えると、危機感を感じました。確かにお金はいろんな物は買えるが、空腹を癒すことは出来ない。いま自給自足の生活、農業の大切さについて、改めて考えさせられています。



クンビクンビという羽根蟻

羽をとって揚げると結構おいしい  
酒のつまみに合うかも?



カシューナッツ

焼いた跡に殻を剥くとうなります。  
酒のつまみにバッチリ



油で揚げているチャパティ

# 協力者一覧

平成18年2月から3月までの集計です。

## 継続会員

ご継続ありがとうございます。

## 【正会員】

堀内久雄  
パトリシア・ブラウン  
エリザベス・マクドナー・橋村  
山口 久臣・山下 定美  
的野 生子

## 2005地球市民奨学金

これからよろしく願います。

## 【タイクーキャオ中学校】

池田 瑛・江口 陽子  
【タイクーキャオ高校】  
下村 照英

## 2006地球市民奨学金

これからよろしく願います。

## 【タイクーキャオ中学校】

牟田 泰明・松田 高男  
坂井 和美・中村奈保美  
東 勇太郎

## 【タイクーキャオ高校】

福岡 麻美・福岡加代子  
安川 義巳・東 勇太郎

## 【タイボーゲウ校】

古賀 信枝・秀島 辰美  
東 勇太郎・松尾 隆弘

## 【スリランカシヨダヤ奨学金】

谷本 敏子

## 書損じはがき・古切手 他

いつもありがとうございます。

大野 裕里・安心院晶子  
東与賀中学校奉仕部  
龍 千秋・植田 和美  
佐賀県国際課  
札幌市立稲積小学校  
倉富 博美・石塚 雅子  
ビル・サコビッチ  
佐賀中部保健所  
佐賀県地域婦人連絡協議会  
中川副小学校 JRC委員会  
中原工藝舎 小石原和男

## 寄付金

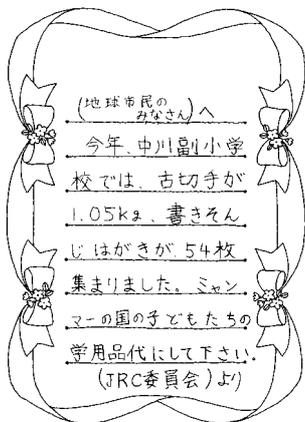
ご寄付ありがとうございます。

## 【事務局支援金】

高橋 伸二・高祖 しづの

## 【ミャンマー協力金】

講演会参加者の皆様



中川副小学校JRC委員会の皆様ご協力ありがとうございます。

## 国際協力カレンダー 好評発売中!!

ミャンマーの人々の笑顔がカレンダーになりました！  
毎月ごとに、ミャンマーの大人から子どもの笑顔の写真と言葉が元気をくれます。

カレンダー:「ミャンマー スマイル」

価格:1,000円(送料は別途いただきます)

サイズ:11.6cm x 11.6cm



### 世界に1つだけのカレンダーを作りませんか?

オプション(詳しくは別紙の申込み用紙をご覧ください)

- ・申込みは1つから注文可能です。
- ・お店の名前などを入れることができます。(株式会社、など)
- ・日付の下に文字入れ可能です。
- 例えば・・・ご友人のお誕生日、家族のメモリアルデーなどを最大5箇所(各箇所最大9文字まで。漢字もひらがなも1文字に含まれます)入れることができます。
- ・ご購入していただいた月から12ヶ月のカレンダーをご用意します。

収益は...

このカレンダーの収益は地球市民の会に寄付されます。

お申込みは...

別紙の申込み用紙にご記入いただき、FAXまたは郵送下さるか、申込み用紙と同じ項目を記入の上Eメールでお送り下さい。

ご質問などがございましたら、地球市民の会事務局までお気軽にお問合せ下さい。

# 活動報告・予定

## 活動報告

- 2/24(金) 山田事務局員スリランカ調査出発(～3/2)
- 2/25(土) 鹿児島県国際交流協会にて講演 古賀会長
- 2/27(月) 嬉野高校にて講演 古賀会長
- 3/2(木) 山田事務局員 スリランカ調査より帰国
- 3/4(土) 環境教育ミーティング(～3/5)
- 3/9(木) 地球市民の会 職員、インターン面接  
佐賀県農業協同組合中央会 ミャンマー視察(～3/14)
- 3/21(火) タイさとおやツアー出発(～3/25)
- 3/23(木) 青年海外協力隊出発前表敬訪問 佐賀県庁
- 3/25(土) タイさとおやツアー帰国
- 3/28(火) 佐賀県国際交流協会 理事会  
佐賀県庁
- 3/30(木) 地球市民の会 理事会
- 4/8(土) 大野プロジェクトマネージャー 一時帰国
- 4/11(火) 長谷川ヤンゴン調整員 一時帰国
- 4/14(金) インターン 小谷さん帰国報告会
- 4/20(木) 大野プロジェクトマネージャー ミャンマーへ

## 活動予定

- 4/22(土) 長谷川ヤンゴン調整員 ミャンマーへ
- 4/27(木) 地球市民の会 第10回理事会
- 5/9(火) NPOセカンドハンド 視察(～5/11)
- 5/15(月) 地球市民の会かながわ 来訪
- 5/21(日) 地球市民の会 第5回通常総会

## 新古賀で買物すれば得した気分!

### 取り扱い商品

- 呉服
- 時計
- 貴金属
- テレビ
- ビデオ
- カメラ
- ステレオ
- パソコン
- デジタルカメラ
- ブランドバッグ
- 商品券
- などなど

お客様に そう言われて 45年。  
ぜひ一度ご来店下さい。



新品・中古品  
取り扱えます。  
下取りもOK!

ディスカウント・リサイクルショップ・商品担保質

### バラエティショップ

# 新古賀

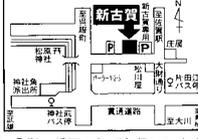
佐賀市松原3丁目(日差さん通り)

FAX(0952) 25-5767 ☎(0952) 22-7298(代)

営業時間/AM9:00～PM9:00 定休日/第1・第3・第5木曜日

●その他何でもご相談下さい。●各種クレジットもご利用できます。●銀一報下さればお伺いします。

赤いのれんを目印に[専用印あり]



## 地球市民ネットワーク

北海道地球市民の会

〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197  
会長 / 阿部功 事務局長 / 新保知博  
TEL・FAX : 0133-74-1296

地球市民の会ふくしま

〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1  
榊石黒

会長 / 事務局担当 石黒秀司

TEL : 024-959-6426 FAX : 024-959-6577

地球市民の会東京

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13  
信州会ビル4F 榊ナチュラル内

会長 / 津川宏幹 事務局長 / 青木高広

TEL : 03-3662-0331 FAX : 03-3662-0400

E-mail : aoki@nun.co.jp

地球市民の会かながわ

〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203

会長 / 松澤幹治 事務局担当 / 近田真知子

TEL・FAX : 045-622-9661

E-mail : port@tpak.org

地球市民みえの会

〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F  
津市市民活動センター内

会長 / 伊藤洋之 事務局担当 / 秋葉幸信

TEL : 059-226-5700 FAX : 059-224-8911

E-Mail : miemiemiemi21@hotmail.com

地球市民の会ぎふ

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1 竹花園内

会長 / 森幹治 事務局担当 / 平井八重子

TEL : 058-391-5415 FAX : 058-391-8600

愛媛地球市民の会

〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640

はばたき授産園内

会長 / 篠崎和夫 事務局担当 / 丹生谷宗久

TEL : 089-963-3772 FAX : 089-963-3795

地球市民の会福岡

〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4  
榊増屋内

会長 / 増田誠司 事務局担当 / 西村和寿

TEL : 092-801-5888 FAX : 092-801-5789

北九州地球市民の会

〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14  
中央会館2F

会長 / 河野一郎 事務局担当 / 大山研児

TEL : 093-521-8181 FAX : 093-551-2296

## ネットワーク・テラ 4月号 VOL.123

発行：特定非営利活動法人 地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

ホームページ : <http://tpa.nk-i.net>

E-mail : [office@tpa.nk-i.net](mailto:office@tpa.nk-i.net)

TEL : 0952-24-3334 FAX : 0952-24-7321

発行日：2006年4月20日

発行人：古賀武夫

編集人：地球市民の会 事務局

印刷：榊サガプリンティング



## 会員の皆様へご案内

特定非営利活動法人 地球市民の会

# 第5回通常総会のお知らせ

期 日：平成18年5月21日(日)

場 所：アバンセ(佐賀県立女性センター)4階 第3研修室  
佐賀県佐賀市天神3-2-11

第1部 13:00~14:00

通常総会

- ・平成17年度 事業報告、決算報告について
- ・平成18年度 事業案、予算案について

第2部 14:10~16:10

地球市民の会 アジア交流ZADANKAI in 2006年総会  
第2部では会員の皆様も交えた楽しい交流形式の座談会を予定しています。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

総会終了後、懇親会(17:00~19:00)を予定しております。

正会員・学生会員の皆様は同封の葉書を必ずご返送いただけますようお願い申し上げます。



## 編集後記

私が編集後記を書くのもこれが最後になるのでしょうか。今年の春は、佐賀で桜を満喫いたしました。毎年、春に桜を見る度に思い出が溢れてきます。「明日あり」と思っているあだ桜、夜半に風の吹かぬものは、ご存知の方も多いと思いますが、かつて若くして出家を決意した親鸞聖人が人生の儂さを歌にたとえたものです。以前は、この歌の「明日」に意識がいついていたせいか、個人的には少し刹那的に響く歌でした。しかし今では明日たとえどんな事が起こっても悔いが残らぬよう、今日というこの一日を充実して過ごすための応援歌となつていきます。もちらん毎日思い出しているわけではありませんが、少なくとも桜の咲くこの季節はいつも以上にこの歌が頭をよぎります。桜以外でも花は美しいものです。「以前、どうして花はあんなにきれいなもの？」という問いに答えていた人を思い出します。その人は前述の問いに「花も含め植物は、誰の目にもするでもなく、ただただ自分の与えられた生命を精一杯生きています。だからあんなに輝いているんだよ。」そう答えてきました。その答えが本音が別として、自分の身に何が起ころうと、その側でただ淡々と自分の与えられた命を全うしている植物には教えられる事がたくさんあるような気がします。地球市民の会も自らの使命を全うすることを通して社会の役に立ちたいと思っています。今度の総会でその使命を皆さんとともに再確認したいと思います。お忙しいとは存じますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 今号のひとこと

# 「春が来れば思い出す〜♪」

実家の屋根の上にふとんを敷いて...

その中で眠ってましたあ〜(笑) 山田

春と言えば新しい出会い!!でしょう。

どんな人と出会えるか、

わくわくドキドキの春だったことを

思い出します。今年も...?? 西村

ロンドンのかつ井!号泣! 池田

春は桜、桜の下で花見弁当! 納富



地球市民の会、及び地球市民運動は、特定のいかなる思想、宗教、政党とも、特別な関係は一切なく純粋に、世界中の人々のニコニコ生活を目指した運動を展開しております。

100 環境を考えたこの会報誌は再生紙を使用し、大豆インクで印刷しています